



大徳寺日記新編 屍骸 第...

と相如江鳥の漢師松本佐兵衛が垣かこらへり行瀬村
木次田安次良方(同村)寅治が謀人として暗礼
を泳やを不日親類より寅治の家へ
参り守房を余に挨拶の旨と云思は

花嫁が大きな放屍を
是はく憎むのか土お
よく出来ませうと口
親類内へ申込多く入ふ
冥て死にたる女安次良の
何とう申込ませうと
そればかりの物でござん
死にたる屍と怒り
落命せりマ、屍ツで
よら屍お締りのよら

まろとお糸の黙止て
何よりのか土産小妻の
うら出次や小云は嫁の
笑うらうが残念と書か
大おかごら寅治が女房
二面當てがでら垣の首切り
我が言をたたり死なせ
安次良の寅治への三言訣と
三人の命を垂るとい笑ふ
嫁さん方おが申よと
讀うり百三十号ニ出



小徳寺日記
新編
百三十号

忠次
修善寺
写